

薬草園の花だより

創刊号

2017年（平成29年）6月19日発行

■ 創刊に寄せて

皆さんこんにちは。このたび、薬用植物園・漢方資料館運営委員会委員長となりました船山です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本学には立派な薬用植物園があり、本学の教職員・学生であればいつでも見学可能なのですが、忙しい業務や学業の合間にせつかく足を運んでも目的の薬用植物の花の時期を過ぎてしまっていたなどということも大いにあるかと思ひます。そこで、本運営委員会では、薬用植物園でまさに今その花が見頃となっている植物、もうすぐ見頃となる植物や本学および他の薬用植物園の催し物を紹介したりするパンフレットを「薬草園の花だより」として刊行することにしました。

薬用植物の収穫ということになりますと必ずしも花の盛りの時期ではないのですが、個々の薬用植物がどんな花をつけるのかを知ることは薬学徒として大切なことと思ひます。

このパンフレットの発行は、当面は花の時期に合わせて不定期とします。取り上げる薬草はその開花時期のものというだけで順不同。内容は薬用植物園運営委員会のメンバーが協力し合いながら執筆しますが、もし、質問や疑問のある場合には是非委員にお尋ねください。また、ときには本学の薬用植物園以外の植物を紹介することもあることを御承知ください。そして、写真の中には少々出来の悪いのもありましようが、そこは素人写真の御愛敬とお許しください。

このパンフレットは、掲示板に掲示する他、プリントアウトしたものを漢方資料館入り口のテーブルなどにも若干枚数置くことにします。要望や御意見、大歓迎です。是非、御愛読ください。（船山）

■ 今咲いています

《ジギタリス》

かつて私が学生のときには、ジギタリスはゴマノハグサ科に属すると習いましたが、今、ジギタリスはオオバコ科に分類し直されています。この新しい分類法は、マバリー（D.J. Mabberley）という方が2008年に発表したものですが、DNAの解析を取り入れた確実性の高いものなので今後大いに使われそうです。

ジギタリスには心臓毒のジギトキシン類を含みます。ジギトキシンは強心性配糖体に属し、その毒性はかなり高いです。かつて、ジギタリスをムラサキ科のコンフリーと取り違えて食べてしまい中毒した例がありました。現在は、コンフリーについても、肝臓毒を有するピロリチジン系アルカロイドを含むため、食べてはいけな植物となっており、厚労省の警告も出ています。ジギタリスの葉は触るとベルベットのような手触りである一方、コンフリーの方はがさがさです。一度ジギタリスの葉を触ってみてはいかがでしょう。ただし、その手はよく洗ってくださいね。

今、日本薬科大学薬用植物園にては、ジギタリスは温室の前で咲いています。赤紫色の花の方がよく知られているかもしれませんが、ここでは白い花も見られます。

《インドジャボク》

インドジャボクは印度蛇木とも書き、インド原産のキョウチクトウ科の植物です。薬用にはその根を使用します。この植物の根からはインドのチョプラ（Chopra）博士らが1950年代にレセルピンというインドール系アルカロイドを単離しています。レセルピンは当初、血圧下降成分として報告されていましたが、その後、レセルピンはメジャートランキライザーとしての働きのあることがわかりました。この薬物が発見されるまでは、精神を病む人は、ただ物理的に押さえつけている他ありませんでしたが、この薬物の出現で精神のコントロールも出来るようになったのです。

今、その花が日本薬科大学薬用植物園の東側の温室で咲いています。結構きれいですから是非、ご覧ください。かつて、船山は、インド北部のパキスタンとの国境近くにあるチャンディガール市にあるパンジャブ大学薬用植物園において、この植物が屋外で栽培されているのを見たことがありますが、その生育状況はあまり芳しいとはいえず、むしろ日本薬科大学のものの方がよく育っていると思ひます。



ジギタリス



インドジャボク

■もう少しで咲き終わります・これから咲きそうです・他

《ベニバナ》

温室前の花壇にたくさん育っており、咲きはじめました。まだ花の色は黄色ですが、もう少しで中心部が朱色になってきます。

《ゲットウ》

日本薬科大学薬用植物園の温室には多くのショウガ科植物が栽培されています。その中で、草丈が3mにもなるゲットウ（月桃）が温室の天井に届くまで生長して花を付けています。ただ、まもなく終わりになりそうなので、見たい方は急いでください。西側の温室の西の端です。月桃は沖縄では邪気払いの植物とされているとか。

《ホソバセンナ》

別名チンネバリーセンナといい、葉を緩下剤として使用しますが、その花を見たことがありますか。今、東側の温室で黄色いきれいな花をつけています。もう少しで終わりそうですから、見たい方は急いでください。

《バナナ他》

今、温室内にてバナナの大きな果実が下がっています。まだほんの一部しか熟していません（熟しても勝手に食べないでくださいね）。なお、外には、ニチニチソウやマリーゴールド、ミニヒマワリも咲いていますから鑑賞してください。

■薬用植物園からのお知らせ

《漢方薬・生薬研修会が開催されました》

日本薬科大学薬用植物園は、公益財団法人 日本薬剤師研修センターにより、「平成29年度薬用植物園実習実施機関」として認められ、2017年6月11日（日）には、船山委員長を講師として平成29年度 漢方薬・生薬研修会が実施されました。この日は24名の受講生（全て薬剤師）たちが講師の案内に大変熱心に耳を傾け、薬用植物園内を見学して下さいました。

発行：日本薬科大学薬用植物園運営委員会
委員長／船山信次
副委員長／山路誠一
委員（教員）／野口博司、西川由浩
新井一郎・系数七重
委員（事務）／今村隆・笹井彰・鈴鹿和子
土屋翔太郎・天野崇教・高峰康行

《参考までに》

